

57 夫沢地区海岸 公共災害復旧事業（再生・復興）

受賞機関 福島県 富岡土木事務所

キーワード 津波、減災、堤防、粘り強い構造、施工合理化

全建賞審査委員会の評価ポイント

東北地方太平洋沖地震による津波で被害を受けた夫沢地区海岸で、堤防工、樋門工、消波工を施工し復旧。高線量下で作業時間が限られる中、ICT技術を活用して効率的な施工を実現。コスト縮減に努めつつ、無事故無災害で工期を24日間短縮し、出来形や出来映えが、極めて良好な災害復旧工事を完成させた点が評価された。

1. はじめに

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震による津波で、夫沢地区海岸は大きな被害を受けた。この海岸は、東京電力福島第一原子力発電所から南へ約2kmにあり、双葉郡大熊町の中間貯蔵施設エリア内に位置している。

被災から8年後の平成31年2月に、平成23年災第50次査定を受けた。その後、令和3年3月に保留が解除され、令和4年1月に工事が始まった。そして、被災から13年が経過した令和6年3月に竣工した。



令和6年3月竣工時

2. 事業の概要

堤防工206.8m、樋門工1基及び消波工（4tブロック）1,230個の復旧工事において、堤防工は既設堤防高T.P.+6.2mをT.P.+7.2mへと1m嵩上げし、河口部であることから、河川部約73mをレベルバック区間として海岸堤防と同等の構造とした。さらに、河川上流のすり付け区間約19mについても、川表、天端、川裏の三面をコンクリートブロック張り等で被覆し、堤防全体を粘り強い構造とした。

また、現地は放射線の空間線量が高く、帰還困難区域に指定されており、国の規制により区域内への立ち入り可能時間が、午前9時から午後5時までに制限されている。

3. 事業の成果

このような厳しい作業環境下において、ICT転圧管理システムの活用、コードレス高周波バイブレータの使用など、作業の省力化や合理化を図るとともに、限られた作業時間の中で効率的に施工を進めるため、休憩・昼食時間は作業班（土工、護岸工、構造物工、仮設工等）ごとに設定し、次工程への待ち時間が少なくなるよう調整した。また、津波により既設堤防の波返し等、上部構造は破損・流失したが、下部構造は健在であったため、これを活用して川表護岸の基礎高を上げることで護岸面積の削減を図り、基礎工施工のための締切りとしても利用し、約5千万円のコスト縮減となった。

工事施工中には、県や大熊町職員を対象とした現場見学会を開催し、職員の関心を高めるとともにその様子を事務所のSNSで発信し、立ち入りが制限されている帰還困難区域内であっても、公共施設の復旧工事が着実に進められていることを広く伝えることができた。



現場研修の様子をSNSで発信

4. おわりに

平成23年に地震、津波、さらには原子力災害を受けた相馬・双葉の相双地域は、令和元年及び5年の豪雨災害、令和3年及び4年の地震災害など、ここ数年も度重なる災害に見舞われている。

私たちは、「ひとつ、ひとつ、実現するふくしま」をスローガンに掲げ、日夜、復旧・復興に取り組んでいる。

賛助会員 田中建設(株)、(株)泉田組